矢作川流域圏懇談会通信

R4 山部会編 vol. 4

発　行　日：令和４年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 65 回山部会WGを開催しました！

11 月 25 日(金)に第 65 回山部会WGが豊田市にて開催されました。WG では、テーマ別の活動進捗状況の報告と協議を行いました。また、話題提供として、押井の里「自給家族」、とよた森林学校の新講座「地域の森・健康診断（押井町）」、豊田市・森の総合サイト Tomori について、鈴木辰吉様、山本薫久様、伊藤義徳様にご報告いただきました。

日　時：令和４年 11 月 25 日（金）　13:30～17:00
場　所：豊田森林組合庁舎　会議室Ａ・Ｂ
参加者：25 名（内オンライン参加４名）　※事務局を含む

◆主な会議内容

1．テーマ別の活動進捗状況の報告

令和４年度の活動進捗について、４つのテーマごとに以下のご報告をいただきました。

■流域圏担い手づくり事例集
・今年度の事例集は、名古屋と豊田旭地区を結ぶ、都市も木質化プロジェクトを対象に進めている。この木質化プロジェクトについては、１０年誌でも先行事例として、度々紹介されている。
・今後のスケジュールとしては、１月までに取材者の募集、取材対象者の確定、取材、２月までにレポートの作成、さらに読み合わせ等の修正を経て、年度内の完成を目指したい。

■山村ミーティング・森づくりガイドライン
・串原森の健康診断報告会が、明後日 11 月 27 日に行われる。今回は、地元の中学生と奥矢作森林塾が協力して森の健康診断を進めた。過去に実施した岡崎や豊田旭では、地元の小学生の参加があった。
・矢作川水源の山づくりガイドブックの策定に関する情報については、串原森の健康診断報告会の後に進める。
・流域市村（平谷、根羽、恵那、豊田、岡崎）について、間伐面積のデータを経年的に入手している。流域全体では 1700ha 程度の間伐が行われており、2009 年の 4500ha をピークに減少が続いている。今年からは、皆伐面積が調べられており、流域全体で 7.7ha となっており、間伐に比べれば、極めて小さい値となっている。

■木づかいガイドライン
・根羽村森林組合の今村参事より、流域内外のイベントで使用されている「動く木のおもちゃ」の誕生経緯や現在の進捗状況が報告された。動く木のおもちゃは、木彫りや金属とのマッチングで、より広く（一部海外）活躍の場を広げている。
・親子山村留学制度を経験した太田真智子様（安城市）より根羽村での活動について、ご報告いただき、子育てにおける原体験の大切さに関する意見交換を行った。
・根羽村森林組合の山本英介様より、令和４年度地域おこし協力隊の活動実績を、ご報告いただき、親子山村留学への支援、南信地域（平谷・売木・根羽）の交流、ツリークライミング、他の森林組合・安城市との協働等に関する意見交換を行った。

2．話題提供

一般社団法人押井営農組合代表理事　鈴木辰吉様より、押井の里「自給家族」について、ご説明いただきました。
・豊田市旭地区の押井町は、人口 77 人の小さな集落で、名古屋大学高野先生の人口推計ツールを使うと、わずか数十年で消滅することが分かった。集落の消滅を免れるには、「自給自足」にヒントがあると考えた。
・機械共同型集落営農では将来の破綻が予想されたため、「源流米ミネアサヒ CSA プロジェクト」を立ち上げ、①農地集約化、②米の自給家族、③機械設備拡充に取り組んだ。③ではクラウドファンディングにより穀物保冷庫「みんなの蔵」を整備。
・市内 35、県内 42、県外（東京、京都、大阪など）23 の計 100 家族が 3.0ha の農地を守っている。
・今後は、「UI ターン就農人材の安定確保」、「法人経営の早期黒字化」、「自給家族ネットワークの拡大」、「広域での集落連携による地域の持続化」が課題である。

萩野 NPO 結の家代表　山本薫久様より、「地域の森・健康診断」豊田市域での森林と市民・自治の形成・新たな森林自治の試みについて、ご説明いただきました。
・森林ボランティア、矢作川森林塾、矢作川水系森林ボランティア、NPO 法人「都市と農山村交流スローライフセンター」等多くの活動のきっかけとなったのは、2000 年の東海豪雨であり、関係者の共通の実体験である。
・山の再生が求められる中で、先行したのが市民活動であった。一方で、行政の主導のもと「森づくり委員会」が立ち上がった。それは、単なる諮問機関ではなく行動し、点検し、方針を出す。週に２回ほど手弁当で集まり、意見交換を行い、「100 年の森構想」などが提案された。そこでは 20000ha ほどの放置林を一掃するといったことを目標とした。これは凄いことだ。
・これまでの活動で、地域の森林に対して多くの疑問・課題が生じている。これからは地域で解決すべく、押井町はその先進地として森の健康診断や意見交換の講座を行った。

豊田市産業部森林課主査　伊藤義徳様より、豊田市・森の総合サイト Tomori について、ご紹介いただきました。
・森林に関心がある人の裾野を広げるため、これまでやってきた「とよた森林学校」に加え、「とよた MORIJAM（モリジャム）」を作った。MORI＋アロマ、MORI＋ヨガ等、森に何かを掛け合わせて、楽しみながら森を学んでもらいたいと考えている。
・豊田森の総合サイト Tomori は、森林課主催のイベントだけでなく、森林環境教育に携わる多様な団体が主催する講座の参加者募集、申し込みができるようになっている。是非、流域に関係する皆さまにご活用いただき、充実した情報サイトにしていきたい。

●テーマ別の活動進捗状況

■流域圏担い手づくり事例集

- 取材者として、できれば学生（今日参加の信州大学の学生さんに限らず）にも声を掛けたい。（近藤）
  - ➢ 是非、若い方に取材者に加わってもらい、情報交換や交流を深めてもらいたい。（洲崎）
  - ➢ 今年、根羽村で学生の合宿を行い、そこには信州大学の学生さんに加え、名城大学の建築系の学生さんも来ていて、造林側の学生と森林を使う側の学生の交流は必要と感じた。（近藤）
- この木質化プロジェクトって名古屋大学発案か？（今村）
  - ➢ きっかけは名古屋大学（高野先生）と認識しているが、木材の出所である豊田旭と活用する名古屋錦との交流が生じた経緯についても今回の取材で明らかにしたい。（洲崎）

■山村ミーティング

- 串原の森の健康診断は 10 年前にもやっていて、森の状態は変わったか？（今村）
  - ➢ 植栽密度の低下、森林の健康度の指標となる幹の太さに樹高の形状比の値も改善し、森の状況は改善していることが分かった。また、植栽木以外の樹木（自然林）も増えていることが分かった。（丹羽）
- 地籍調査がほぼ完了し、山主が確定しているため、結果を還元できる点も、新たな前進である。（丹羽）
- 参加者である東大の学生さんは、これから国を支える立場になる可能性もあり、実体験することは大切である。（今村）
  - ➢ 講義の一環で希望を募っている。学生の感想もこの報告会の資料に載せてあるので、確認いただきたい。（蔵治）

■森づくりガイドライン

- 以前の根羽村は、切り捨てなど搬出しない間伐が多かったが、今は森林資源が充実し皆伐にシフトしている。（今村）
- 根羽村の皆伐では、利益は確保できるか？（清水）
  - ➢ 木材収入より皆伐、搬出、再造林までの費用はまかなうことができる。今、最も負債が出るのは鳥獣対策だ。（今村）
- 皆伐を広い場所で行うと土砂崩れなどが心配されるが、連担しないような仕組みはあるのか？（清水）
  - ➢ 森林認証を取得しているので、森林施業プランナーと山出しの班長が浸食を起こさないよう配慮している。（今村）
  - ➢ 市町村の森林計画より、森林認証のルールの方が遥かに厳しい。全国的に皆伐が増える傾向にあり、林野庁も皆伐再造林を推奨しているため、矢作川流域でも皆伐が増える可能性がある。今後の動向に注目したい。（蔵治）

■木づかいガイドライン

- 親子山村留学を２年行って、２年とも同じ家族であったのか？（近藤）
  - ➢ ６家族中３家族は同じだ。次年度の見学には新たに７家族が参加した。安城市としても関心が高まっている。（太田）
  - ➢ 山本英介氏の「山の仕事において、お客さんが見えない」という発言は印象的だ。当方も県職員の時代に、川づくりをしていたが、お客の顔を意識したのは、河川法の改正以降で、県民の意見を川づくりに用いるようになった。（近藤）
  - ➢ 自分たちの使っている木材や水が、どこから来るのかという教育は必要だと思う。学校教育では規模的に難しいため、根羽村と安城市の家族単位の親子山村留学は大変意義のある制度であると感じた。（宇角）

●話題提供について

- 自給家族に関して、三河高原は猛禽類のサシバが大変多い地域だ。それは、昔から水田耕作を谷戸で適切に行ってきた人の営みと関係が深い。ご報告いただいた活動は、この地域に棲む生き物にとっても重要なことである。（髙橋）
- 自給家族では、お米の栽培体験をもっと充実してはどうか？表面的な参加ではなく、しっかり汗をかく作業。農家の邪魔になる程度の中途半端なものではいけない。（沖）
  - ➢ 農業機材を用いているところに都市の住民が来られても邪魔になる。ただ、田んぼの水を作る整備（森林整備）ならできると思う。田んぼと森林整備をセットにして整備することを考えている。（鈴木）
- 押井町の活動の２題を聞いて、事例集で取り扱う名古屋市中区長者町の取材対象と似ている。エリアマネジメントの観点から、背景は異なるものの、つながりは似ていると感じるため、事例集作成において意識したい。（近藤）
- Tomori に根羽村の活動も掲載できるか？（今村）
  - ➢ 流域単位で情報共有ができるプラットホームにしたい。（杉本）

今後のスケジュール（予定）

山部会まとめの会は、１月 30 日（月）に幸田町にて開催（午前中現地見学、午後まとめの会）します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 山路、建設専門官　宮本、技官　松田

TEL 0532(48)8107

＊矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

R4 フィールドワーク vol.4

発　行　日：令和５年１月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆皆伐の効果検証のためのモニタリング調査フィールドを視察しました！

今回は、豊田市東部の御内市有林において、水源かん養機能モニタリング調査フィールドの視察を行いました。本調査では、気象観測装置により周辺の雨量などを記録するとともに、皆伐を行ったところと行っていないところで土砂・水等の流出量を比較し、どの程度変化があるか調査を行っています。

日　時：令和４年11月26日（土）　9:00～12:30
場　所：豊田市足助地区の御内市有林
案　内：蔵治　光一郎氏、柴田　亮介氏
参加者：14名（事務局を含む）

◆フィールドワークの記録

① 気象情報の観測箇所

森林の中に気象観測施設が設置されており、その視察を行いました。
観測施設は研究に必須で、かつ場所の選定が非常に重要なようです。

調査の基本となる、雨量、気温、湿度、風向、風速、日射量、雨の水質を、百葉箱や様々なセンサーを用いて記録しています。このデータと沢に流出する水量などとの比較を行います。

② 皆伐箇所の水・土砂等流出量の調査

斜面の樹木を全て伐採した箇所があり、ここに小さなダムを設置しています。斜面から流れてくる土砂、落ち葉、水の量、水質を計測しています。

伐採を行う前からデータを記録しており、伐採前と伐採後でデータの比較を行います。
まだ伐採したばかりなので、結果が整理できるのは数年後になります。

③ 皆伐未実施箇所の水・土砂等流出量の調査

伐採を全くしていない場所での、土砂や水の流出量を計測する施設です。こちらでは斜面に樹木が残っており、皆伐箇所と同じようにダムを設置して計測を行っています。

視察時はダムに水が溜まっていましたが、雨が少ないときなどは水枯れが起きることもあるようです。皆伐箇所との比較をすることで、伐採によりどれほどの影響あるのか今後明らかになるそうです。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 山路、建設専門官　宮本、技官　松田
TEL 0532(48)8107
＊矢作川に関する情報は、豊橋河川事務所までお送りください。